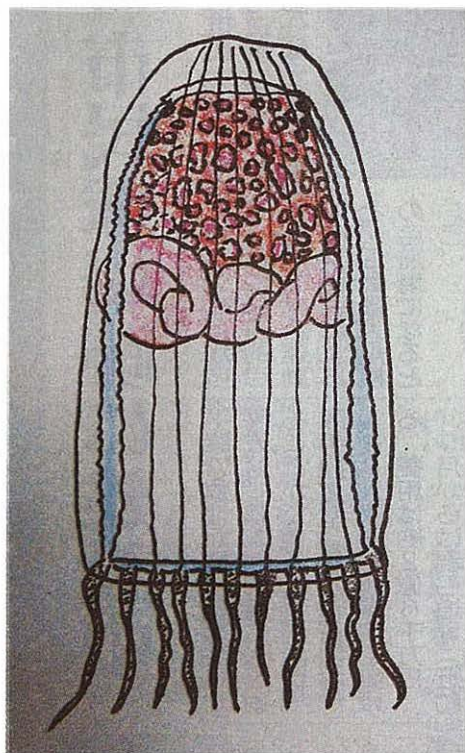


2013年(平成25年)6月12日 水曜日 (10)

ハナアカリクラゲ



△
傘に多数の筋を
持つハナアカリ
クラゲ

特徴は、外傘上に触手数と同数の筋が子午線状に走る点。特徴は、外傘上に触手数と同数の筋が子午線状に走る点。

ハナアカリクラゲの傘の縁を巡る触手は、最多で44本まである。比較的大型のヒドロクラゲで、傘高は30ミに達する。

消化循環系である放射管はお決まりの4本。いずれも幅広く、多数の突起を派出させて巡りをよくしている。傘の

縁を巡る環状管は放射管より細い。本種はわが国での記録は少なく、神奈川県と鹿児島県奄美大島および山形県加茂のみで見つかっている。田辺湾にいても不思議ではなく、いずれ見つけたい種類である。世界ではインド洋や太平洋、大西洋、地中海に分布する。地域によっては傘の頂にゼラチン質の突起がある場合も知られるが日本産にはない。

久保田 信

番外編9



にある。このような多数の筋はクラゲの体の収縮に役立っている」と推察されるが、他のほとんどのクラゲには見られない。触手瘤(りゅう)の外側には紅色の眼点を備え、光の明暗を感知できる。

体の中央に太くぶら下がる口柄(こうへい)の先端にはしわ状の口唇がある。広い口柄の全体に網状の生殖巣が形成される。口柄の全体は紅色で美しい。

ポリプは地中海産のものは群体性で、ヒドロ根から直接1個のクラゲ芽を形成する。外国産の浮遊生活する巻貝類の貝殻に付着する群

体性の別種は、ヒドロ茎やヒドロ根にクラゲ芽を形成する。(京大准教授)